

雑木林ファンクラブ 通信

住所：〒247-0013 横浜市区上郷町 1562-1 「横浜自然観察の森」 Tel:045-894-7474

横浜Y150ヒルサイドのバツを膨らますボランティアに行ってきました

昨年11月、本郷富士山公園にて横浜Y150ヒルサイドで使う竹を切るボランティアに参加しました。横浜市内の公園・山には竹林が蔓延して困っています。解決する一つの方法として竹の伐採です。100人募集に60人位の参加でした。1人10本切りました。竹を切るのは楽しかったです。横浜全体で2万本ほど切り出しました。竹は横浜ヒルサイドで「エコ」の一つとして、竹の海原、竹垣等に使用されていました。竹垣には朝顔などのつる植物を絡ませてありました。

ヒルサイドには、全国から180の創発のメンバーが週替りで出展しておりました。その一つは残った竹で竹炭を焼いて差し上げていました。炭がまは圧力式で煙は出さず、煙はガスで燃やしていました。エコです。展示が終わった竹は宮崎でパルプになります。水のエコは、水道局が「カミナリゴロゴロ」と言って、小屋の中でカミナリを発生させ、風雨の中に傘をさして、カッパを着、長グツを履いて体験させていました。その雨水(水道水)は地下を通して池に流れて行きます。池にはスイレンが咲き、ヤゴ・ミズスマシ・カエルがいました。池の次は棚田です。コシヒカリが植えてありました。新潟のお百姓さんが来て、小学生と田植から稲刈りまでさせたそうです。子供はハサミで稲刈りをしたそうです。畑もありました。畑は近所のボランティアの方が作っていました。スイカ、夕顔等色々植えてありました。

バツを膨らますのは、ヒル会場の「みはらしの丘」です。横浜国大の唐ゼミの人達と、私達ボランティア、大学生と小学生1人、女性6人(私は一番年長)です。バツは縦50m、高さ15mで布で出来ていますので、横に広がらないように中には色々工夫されていました。アメリカ製です。材質はパラシュート生地、ミシンで縫い合わせてあります。出入り口は大きなジッパーが取り付けられています。強力な送風機を5台使って30分位でバツは膨らみます。バツはいつもは小屋にトグロを巻いて寝ています。仕舞うのも、持ち出すのも大変です。テントを畳む様に折って折って、細くして、紐で何ヶ所か縛ります。小屋に仕舞う時も車に積む時も、人の力です。掛け声を掛けながら、ヨイショ・ヨイショと運びます。

バツが膨らむと私達の仕事は、囲いの警備と子供達に声を掛け、バツの脚を乗せて相手になってあげることです。小さな子供が空気の上を歩くのはとても大変ですが、歩けた時の顔はうれしそうでした。病みつきになってなかなか降りたがらない子供も出て来ました。帰る時はアリガトウと言ってくれますが、2・3歳の子供に、頭を下げて「アリガトウゴザイマス」とお礼を言われた時はびっくりでした。乳母車を押してる若いパパと子供達でした。

世の中は変わっていくのでしょうか。見るよりは参加するほうが楽しいです。

雑木林ファンクラブも林を見て歩くよりは鎌を使い汗を流す方が充実感があります。

張間信子



1. 9～10月の活動報告

- ① 9月26日(土)晴 18名 竹林整備、製材、炭材作成、ベンチ製作
- ② 10月3日(土)雨 14名 炭小屋整備
- ③ 10月10日(土)曇 20名 9号緑地間伐:18本(材は土留めに使用)
- ④ 10月17日(土)曇 23名 クヌギ林植生調査、本窯準備、運営会、勉強会
- ⑤ 10月18日(日)晴 9名 ベンチ製作、材皮むき、森ボラ対応
- ⑥ 各水曜日に準活動日として木工作业を実施



腕の見せ所? 掛かり木処理(木廻し)



今回、間伐した樹は土留めに使用



ベンチ作成も佳境です。長いからと言って新幹線ではありません



唯一倒れたほだ木から生えました。刺激を与えると成長が促進される!?

2. 10月度運営会報告 -10月17日開催-

- ① 11月の作業打ち合わせ …3項の通り
- ② 勉強会:伐木作業

3. 11月度活動予定

- ① 10月24日(土) 炭焼き、製材、ベンチ製作、炭小屋整備
- ② 10月25日(日) 炭焼き、友の会・収穫祭
- ③ 10月31日(土) **活動休止日**
- ④ 11月7日(土) トウネズ徐伐、炭出し、炭材作成
- ⑤ 11月14日(日) 竹林整備、炭材作成、駐車場前廃材移動
- ⑥ 11月21日(土) 炭材詰め(本窯)、材皮むき、運営会・勉強会
- ⑦ 11月28日(土) 製材、ベンチ製作、炭小屋整備、クヌギ林植生調査
- ⑧ 毎水曜日:準活動日

4. その他

- ① 11月12日(木)午後 横浜栄高校・三世代交流会(旧せせらぎ交流会)
- ② 忘年会は、12月19日(土)です。予定を空けておいてください。
- ③ 雑木林ファンクラブ通信インターネット版はここ。 <http://zfc.yamagomori.com/index.html>

5. 編集後記

- ① 今回の巻頭コラムは、創設期からのメンバー張間さんをお願いしました。横浜Y150ヒルサイドの様子を裏方から伝えていただきました。面白いですね。植物の造詣の深さとお料理のお上手なことで、つつい色々頼ってしまいますが、もっと汗を流して楽しんでいただきたいと思います。
- ② 兵庫県佐用町水害支援として、竹炭80キログラムをセンター(市)の声掛けで9月5日送付しました。横浜市全体で、計1.6トン弱になったそうです。ネットを見られる方はこちらをご覧ください。
<http://zfc.yamagomori.com/sayocho.html>
- ③ 10月17日の勉強会の資料の一部を最後に記しておきます。詳しいことを知りたい方は武田さんにお問い合わせください。

以上

●10月17日勉強会資料(一部)

【伐木作業】

1. 伐木作業手順

- 1) 選木
- 2) 現場にての伐木準備
- 3) 伐木作業
- 4) 後処理
- 5) 運搬

2. 実際の作業

1) 選木

- ① 木の間隔が狭い(葉が重なり合ってる、生育の邪魔をしている等)
 - ② 成長が良くない(細い、曲がっている等)
 - ③ 他の植物の生育を邪魔している
- * 選木時に掛かり木にならないように伐木の順番も決めておくの良い

2) 現場にての伐木準備

- ① 対象木の周りの下草等を整理する
- ② 倒す方向を決定する
- ③ 伐木作業者の逃げる場所を確保する(倒す方向の後ろ～斜め後ろ)
- ④ ロープを引く方向の確認
 - ・スナッチブロック(滑車)を掛ける木や引く人の安全な位置も含めて確認

3) 伐木作業

- ① ロープを対象木に掛ける(ロープ掛け、一本ばしご)
- ② 受け口の位置、方向、大きさ(深さ)の確認
- ③ 対象木の周辺の再確認
 - ・上方・周囲・前方・足元・退避方向
- ④ 受け口を作る
- ⑤ 受け口と倒す方向にずれが無いか確認
 - * ずれや小さすぎた場合は修正する。
- ⑥ 追い口の位置、深さの確認
- ⑦ 追い口を切る
 - * ゆっくり受け口に平行に切れているか確認しながら切る
 - * 切り過ぎないように注意すること
- ⑧ 対象木が動き始めたら合図をしてロープを引いてもらうと同時に退避行動をとる

⑨対象木が倒れたら、残った「ツル」を切り離す。完全に切り離されると再度対象木が動き出すので、対象木の周りに人がいないか確認してから切り離すこと

⑩対象木の動きが止まったら、後処理に入る

4)後処理

①枝払い(払った後の枝の整理も含む)

②玉切り(事前に長さを決めておくこと)

* 不要材でメジャーになるものを作成しておく

5)運搬

* 伐木する場所毎に検討する

3. 備品の準備

1)各個人で装備するもの

・ヘルメット ・作業用ベルト ・鉋、鋸 ・水分

2)グループで装備するもの

・ロープ(長x2、短x2) ・ワイヤー(スナッチブロック用) ・ロープ掛け または、一本ばしご
・スナッチブロック(滑車) ・木廻し+てこ棒 ・クサビ ・手曲がり鋸 ・チェンソー ・燃料、
チェーンオイル、専用工具、替刃 ・鎌 ・笛 ・メジャー ・救急箱 ・水分+コップ

4. まとめ役の作業

1)出発前

①メンバーの確認

②メンバーへの作業内容、場所の説明

③備品の確認(個人、グループ)

2)作業場所到着後

①作業場所の確認(危険箇所等の確認も含む)

②伐木材の収集場所確認

③メンバーへ現地での注意事項の徹底と役割分担

④作業開始の指示、作業中の休憩の指示、作業終了の指示

⑤メンバーの作業状況の把握

⑥作業終了後の備品確認

⑦伐木材、枝等が整理されているか確認

→ 散乱して危険な状態になっていないか

⑧グループで反省会を行う

* まとめ役は、あまり実作業に入らずにグループ全体の状況を常に把握していること

5. 伐木造材作業の安全について(林業・木材製造業労働災害防止協会HPより)

—略—

6. かかり木処理作業の安全について(林業・木材製造業労働災害防止協会HPより)

—略—

7. 災害事例(林業・木材製造業労働災害防止協会HPより)

—略—

8. 伐木作業の装備品リスト

—略—